

<取組報告／立命館大学>

インターンシップの高度・波及化の追究

平成25年3月14日

「体系的なキャリア教育・職業教育の推進に向けた
インターンシップの更なる充実に関する調査研究協力者会議」

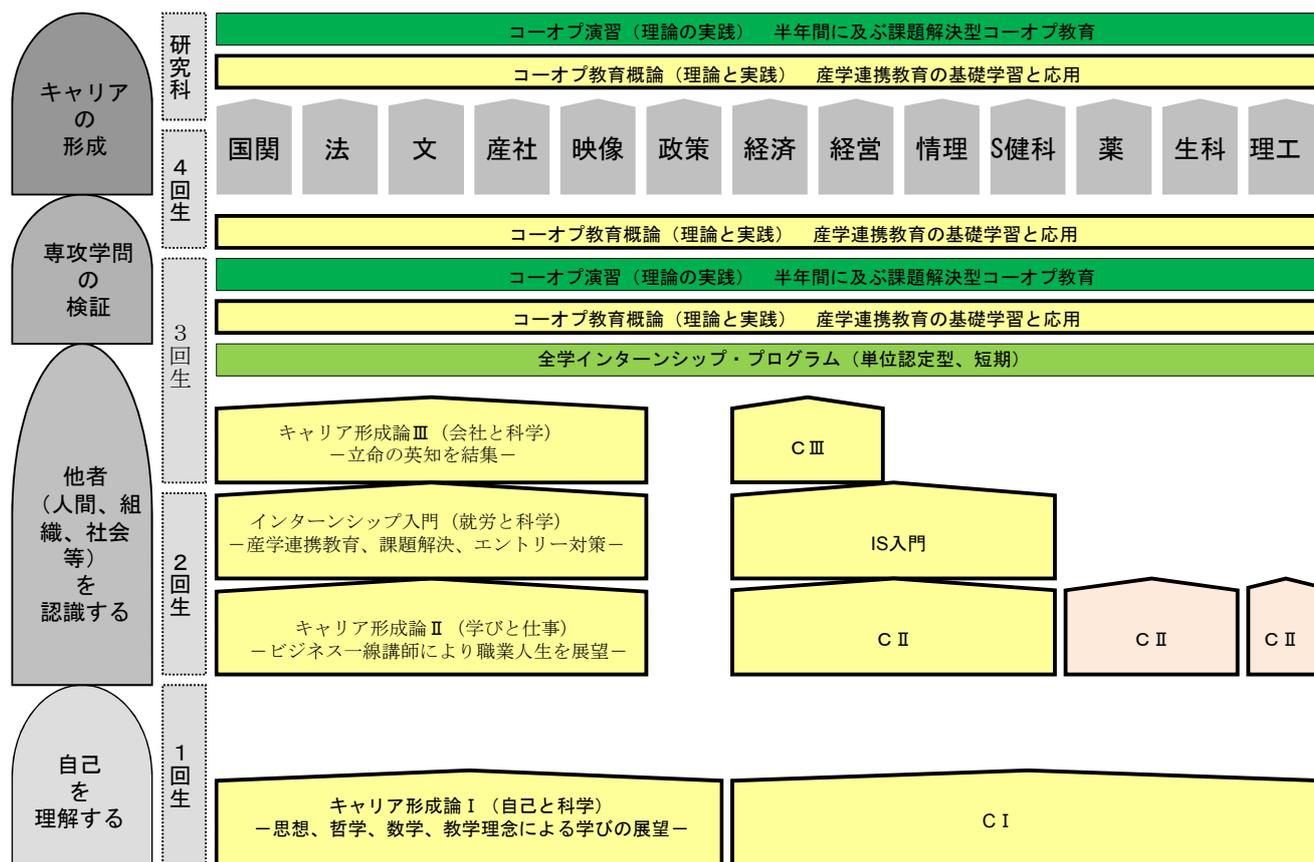
立命館大学 共通教育推進機構教授
キャリア教育センター長
加藤敏明

【第一部】立命館大学の短期インターンシップの概要

<特長>

- 1、**キャリア発達段階**を基本とする
- 2、**全学型と学部・研究科型**を縦横に配置する
- 3、**全学型**は原則として**教養教育**とする
- 4、**学部・研究科型**は原則として**専門教育**とする

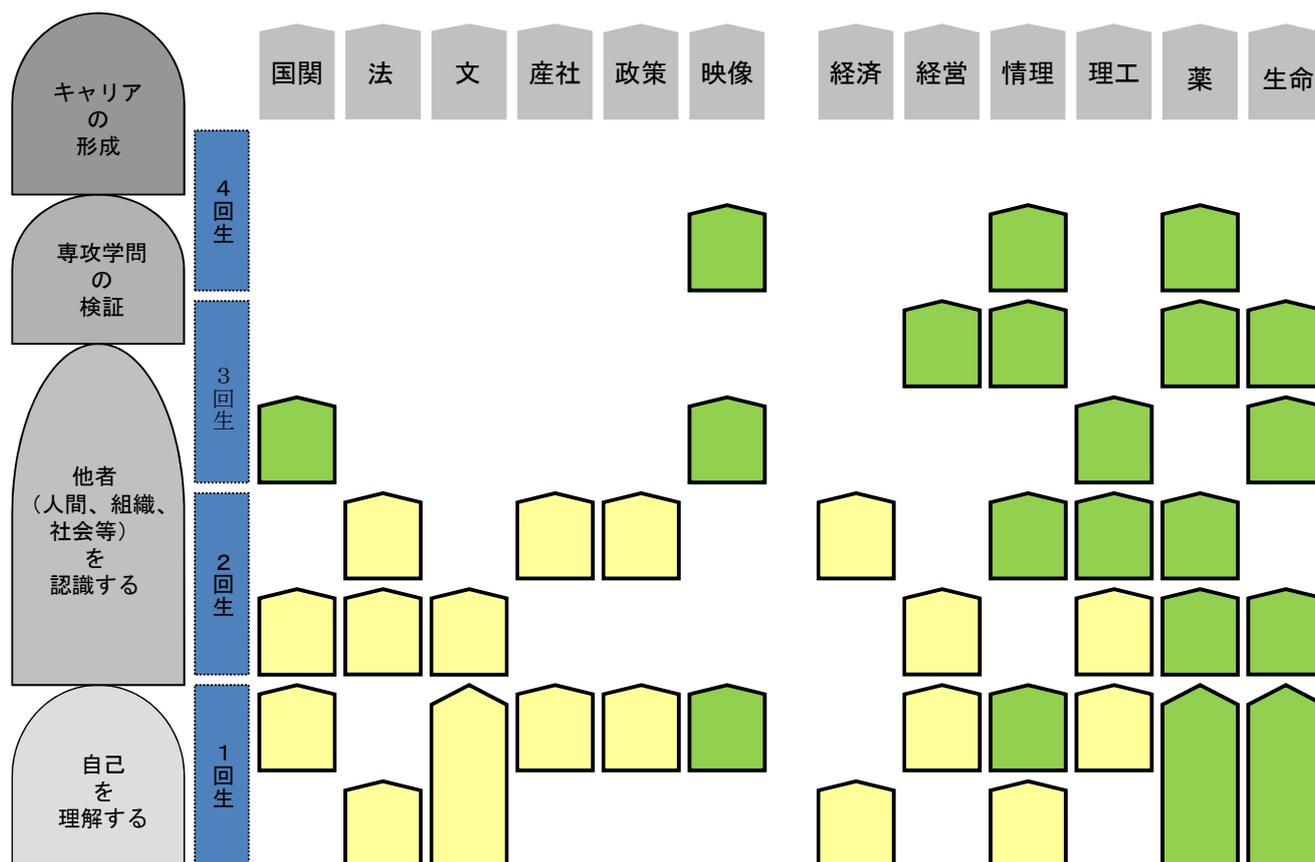
● 全学型キャリア教育科目 2012 ●



● 全学型キャリア教育科目受講者数 2012 ●

学部	延べ受講者数
法学部	267
経済学部	9
経営学部	193
産業社会学部	66
国際関係学部	63
政策科学部	20
文学部	108
映像学部	31
理工学部	160
情報理工学部	7
生命科学部	25
薬学部	95
スポーツ健康学部	36
研究科(総合)	5
合計	1085

● 学部型キャリア教育科目 2010 ●



● 全学型インターンシップの派遣数 2012 ●

学部	A + B	A	B
法学部	7	—	7
経済学部	15	—	15
経営学部	24	—	24
産業社会学部	17	9	8
国際関係学部	19	16	3
政策科学部	4	—	4
文学部	16	—	16
映像学部	0	—	0
理工学部	4	—	4
情報理工学部	4	—	4
生命科学部	10	—	10
薬学部	0	—	0
スポーツ健康学部	31	31	0
その他	23	23	—
合計	174	79	95

● 全学型インターンシップ 事前研修 2012 ●

<p>② ① 財務分析の 基本</p> <p>【オリエンテーション】</p> <p>①「学びの気づき」解説</p>	<p>② ① 情報漏えいと賠償 各種ハラスメント対策</p> <p>【リスクマネジメント】</p>	<p>③ ② ① 身だしなみ 二人称的発想とマナー 通信手段への対策</p> <p>【マナー研修】</p>	<p>② ① 企画立案能力の習得 財務分析等による分析</p> <p>【グループワーク+発表】</p>
--	---	---	--

● 全学型インターンシップ 事後研修 2012 ●

<p>【事実認定】</p> <p>ファクト(ファクト、データ、イン フォメーション)とイメージの整理</p>	<p>【事実に基づく帰納思考】</p> <p>財務分析等を基に解決すべき課題、 論点を明らかにする(仮説)</p>	<p>【仮説に基づく演繹思考】</p> <p>① KJ法による発想出し ② 複数発想の統合・整理 ③ 再発想から企画立案へ</p>	<p>【企画立案発表】</p> <p>事実に基づく独創的な発想の 基準で、企画立案を競う</p>
--	--	---	--

● インターンシップの派遣実態① 2012 ●

協定型インターンシップ(夏期)	174
協定型インターンシップ(春期)	22 ※
小計	196 ※
サービスラーニングセンター所管インターンシップ	145 ※
キャリアセンター所管インターンシップ	340 ※
小計	485 ※
派遣総数	681 ※
[参考] キャリアセンター主催ガイダンス アンケート集計 「インターンシップを体験済み」	921

※ ⇒未確定値
赤字⇒推計値

● インターンシップの派遣実態② 2012 ●

協定型インターンシップ(夏期+春期)	196
サービスラーニングセンター所管インターンシップ	145 ※
キャリアセンター所管インターンシップ	340
自由応募型インターンシップ	800
小計	1481 ※

推計年間体験者数(B)	1500~2000
体験者数/3回生在籍数	21~29%

事前学習履修者数(A)	341 ※
全学型キャリア教育科目受講生 A/B	1085(延) 17~23%

※ ⇒未確定値
赤字⇒推計値

● 全学型事前学習セミナー 2012 ●

<p>【基礎編】</p> <p>① 客観的な新卒雇用市場の分析</p> <p>② 戦略なインタビューシップ考察</p>	<p>【会社とは何か】</p> <p>① 「会社」の基本的な仕組み学習</p> <p>② 「会社」の見分け方</p>	<p>【四季報を使いこなす】</p> <p>① 主な財務指標の基礎学習</p> <p>② 経済新聞記事の読み込み</p> <p>③ 独自の財務分析への挑戦</p>	<p>【受入社の見分け方】</p> <p>① 財務による受入社分析</p> <p>② 受入社を取り巻く環境分析</p>
---	--	---	---

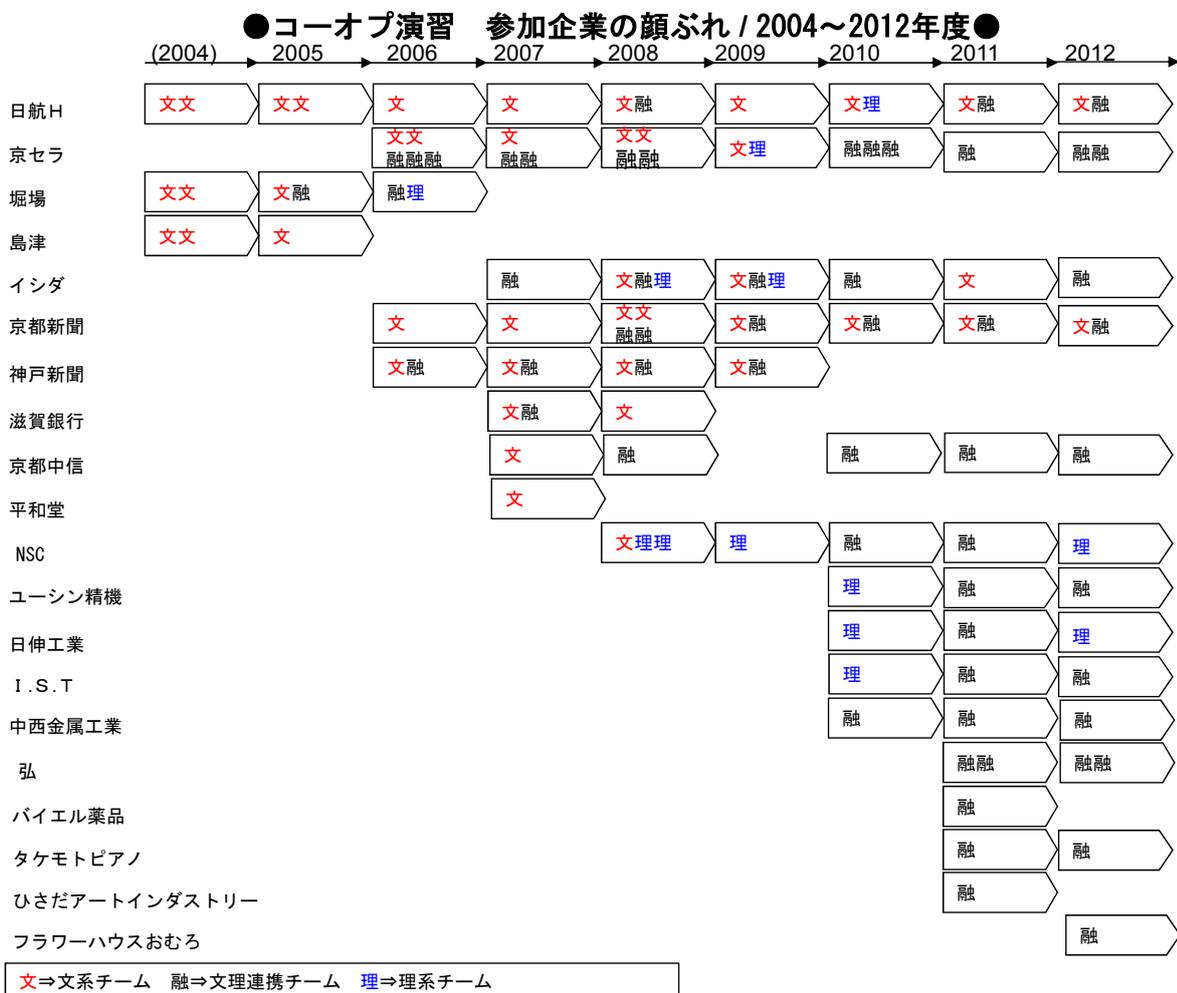
● 事前学習セミナー参加者数 2012 ●

	1	2	3	4
法学部	117	37	32	98
経済学部	269	107	69	209
経営学部	159	71	56	142
産業社会学部	135	37	32	104
国際関係学部	49	13	11	32
政策科学部	70	29	24	61
文学部	119	55	54	109
映像学部	4	0	1	2
理工学部	180	84	64	168
情報理工学部	63	28	23	49
生命科学部	76	33	28	76
薬学部	1	1	1	1
スポーツ健康学部	3	1	1	3
研究科(総合)	22	13	11	17
合計	1267	509	407	1071
総計(延べ数)	3254			

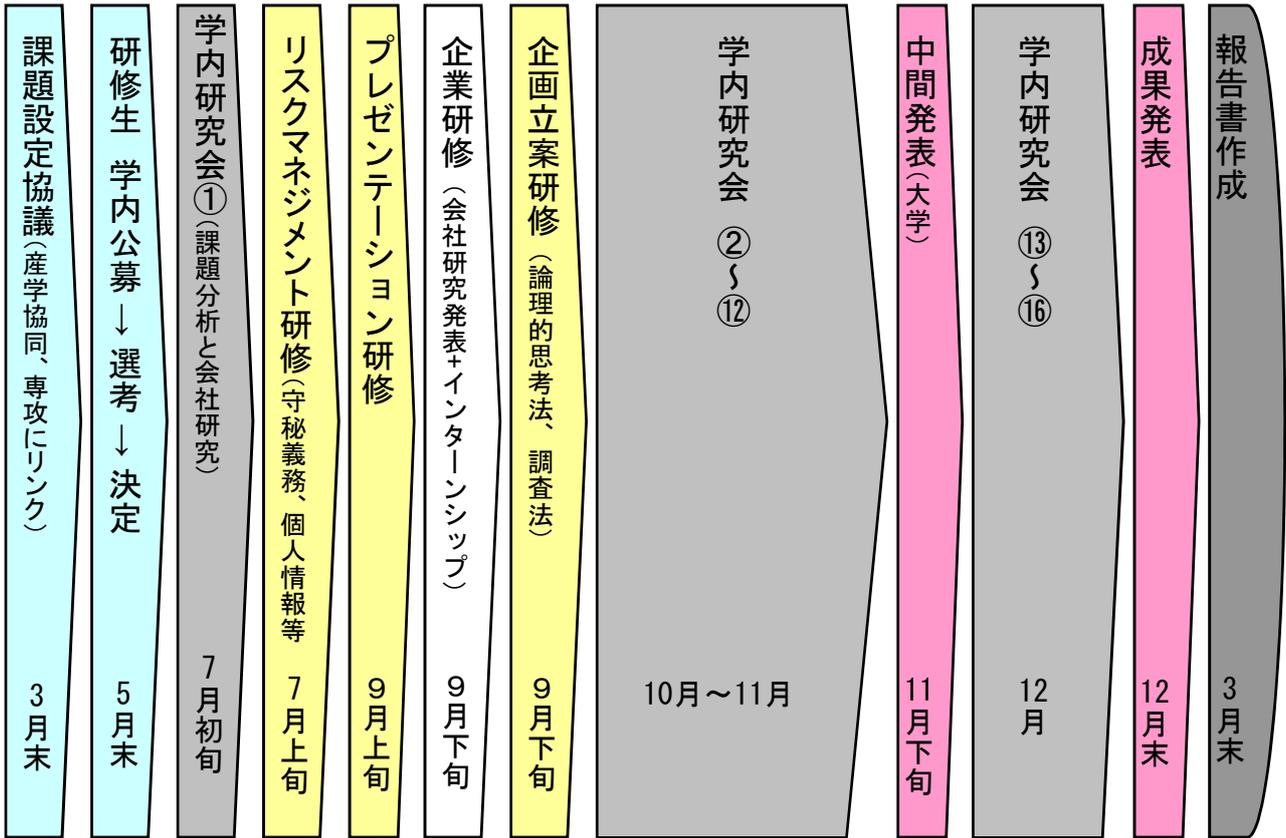
【第二部】立命館大学の長期インターンシップの概要

＜特長＞

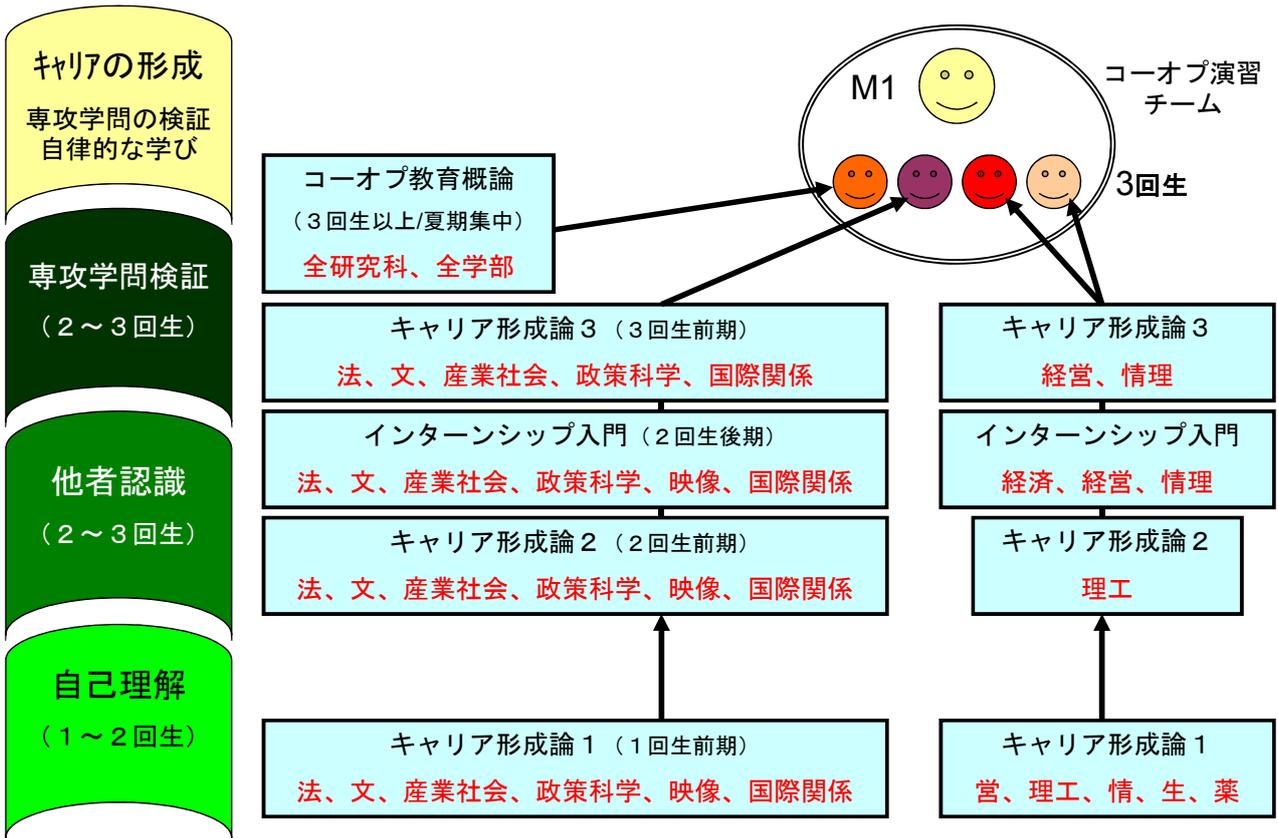
- 1、期間（6ヵ月）中の**受入社の負担を最小限にとどめる**
- 2、大学院生（リーダー）と複合型の学部生（メンバー）が協働で学び合う
- 3、**課題を徹底的に調べ上げる**



●コーオプ演習の全工程 / 2012年度●



●カリキュラムにおけるコーオプ演習の位置づけ / 2012●



【第三部】長期インターンシップの評価法と教育改善

＜特長＞

- 1、 **Taxonomy（教育目標分類学）** を基礎とする相互評価
- 2、 学生チームの内実を計測し、 **次年度の教育力改善**につなげる

●コーオプ演習における相互評価指標●

B.S.Bloom の教育目標分類学（Taxonomy）

	達成目標	向上目標	体験目標
認知的領域 (Cognitive Domain)	知識、理解等 (知識、理解)	論理的思考力、創造性等 (思考・判断)	発見等
情意的領域 (Affective Domain)	興味、関心等 (興味、関心)	態度、価値観、倫理観等 (態度)	触れ合い、感動等
精神運動的領域 (Psychomotor Domain)	技能、技術等 (技能、表現)	練達等	技術的達成等

目標類型と目標領域の観点からの代表的目標例の分類
(梶田、1978)

産官学地連携教育における二つの教育目標（評価軸）

1、 **学びの成果**（認知的領域＋精神運動的領域）

「〇〇〇ができるようになった」

2、 **価値観**（情意的領域）

「見方が〇〇〇に変わった」

●コーオプ演習における相互評価指標●

B.S.Bloom の教育目標分類学 (Taxonomy) に基づく評価指標の整理 - 1

1、学びの成果 (認知的領域+精神運動的領域) 「〇〇〇ができるようになった」

評価分類	評価項目	評価軸(基準)
学問の 応用力	(評価軸1) 基礎学力の向上	演習における学習活動の中で、専攻学問に関わる基礎学力が向上した
	(評価軸2) 知識の獲得	演習における学習活動の中で、専攻する学問に必要な幅広い知識を獲得することができた
	(評価軸3) 学問の応用	演習における学習活動の中で、専攻する学問を実際に応用することができるようになった
チーム 活動	(評価軸4) 成果への貢献	チームの到達した成果に貢献することができた
	(評価軸5) チーム活動への寄与	メンバーの意見を取り入れながら、率直に自らの意見も主張し、建設的な議論を展開できるようになった
	(評価軸6) 情報の収集、活用	必要な情報を取捨選択し、収集および活用することができるようになった
問題発見、 課題解決 能力	(評価軸7) 課題の理解	相手(課題提示者)の意図を読み取り、期待されるものを理解できるようになった
	(評価軸8) 問題の発見	論理的な思考から、問題の所在を見出すことができるようになった
	(評価軸9) 課題の解決	独創的なアイデアを発案できるようになった

●コーオプ演習における相互評価指標●

B.S.Bloom の教育目標分類学 (Taxonomy) に基づく評価指標の整理 - 2

2、価値観 (情意的領域) 「見方が〇〇〇に変わった」

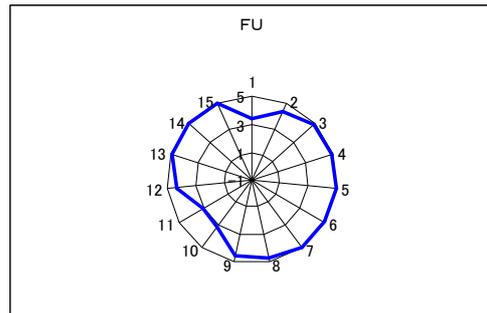
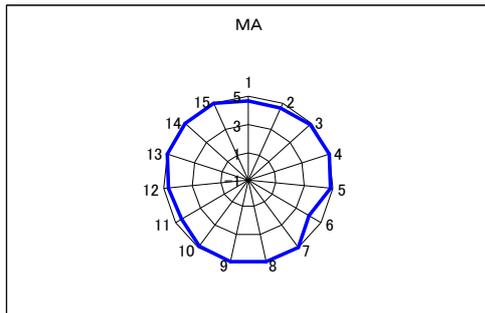
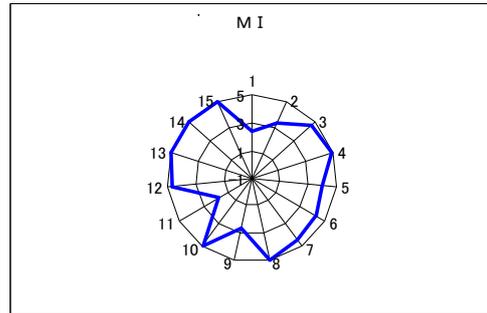
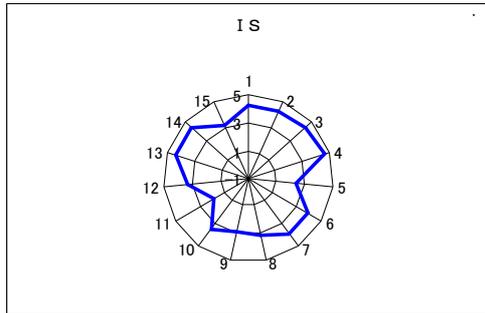
評価分類	評価項目	評価軸(基準)
価値観	(評価軸10) 観察力の涵養	物事をイメージにとらわれず、客観的に観察し理解するようになった
	(評価軸11) 視野の拡充	ものの見方、考え方が根本から広がり、深まった
	(評価軸12) 自律の達成	自律的な学びの意識、姿勢が育まれた

リーダーシップ	(評価軸13) チームの運営	半年間のチームの活動を、当初の計画どおり遂行することができた
	(評価軸14) チームの統括	メンバーの意見を汲み上げつつ、チームとしての円滑な活動を推進することができた
	(評価軸15) メンバーへの配慮	メンバーに対して公平に接し、学び合うことができた

●コーオプ演習における相互評価結果●

教育目標分類学 (Taxonomy) に基づく評価指標による教育効果分析

理系チームリーダー評価から浮き上がる読み取り方 (仮説)



(参考) インターンシップの高度化に向けて

【世界標準の要素】

第一要素 専門性の確立

第二要素 長期性の確保

第三要素 反復性の実行

【日本型の付加要素】

第四要素 一定の教育改革への貢献

第五要素 公共・公益性の担保

報告は以上です。
忌憚のない質問をよろしくお願いいたします。
